

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.73		桶ヶ谷沼		生物地理区分		コナラ林(東日本)	
				地域区分		都市周辺	
所在地	都道府県	静岡県	地形条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地	
	市町村	磐田市		4.低地	5.その他		
	集落名称等	岩井	環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田	
				4.畑	5.小川・水路	6.ため池	
7.池沼・湿地	8.社寺林	9.人工林					
10.その他(竹林)							

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの :それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
静岡県の自然環境保全地域	重要湿地 500
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
桶ヶ谷沼とその周辺の草地 二次林等はベッコウトンボを中心とした、トンボ類(70種類)の生息地となっている	

	
撮影時期：2006年11月 写真の説明：ベッコウトンボを保護するために沼面及びその周辺は静岡県の自然環境保全地域に指定されている。	撮影時期：2007年5月 写真の説明：ベッコウトンボ増殖のため、地元「岩井里山の会」が沼北側の生息環境復元作業を行った。

NO.73		桶ヶ谷沼		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	静岡県			2.団体・企業・学校等
	市町村	磐田市			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	岩井			4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他	

取組主体	主な主体の名称	桶ヶ谷沼保全委員会・桶ヶ谷沼管理運営委員会 (静岡県、磐田市、地元自治会、活動団体、専門家等)			
	その他の主体の名称	野路会、NPO 法人桶ヶ谷沼を考える会、岩井里山の会、静岡県渡り鳥研究会			
目的 : 主 : その他	3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用				
	自然観察会	*	トンボ観察会、魚類観察会、野鳥観察会など		
	環境教育・学習活動	*	小中学校の環境教育、総合学習の指導		
	里地里山体験・環境保全	*	ベッコウトンボを中心としたトンボ調査活動、魚類を中心とした水生動物調査、渡り鳥の調査		
	農林業体験活動				
	エコツアー				
	その他	*	ベッコウトンボ増殖のための復元池造成・管理、山林の管理活動		
取組内容	4.野生動植物やその生息地の保全・管理				
	沼本体は静岡県自然環境保全地域特別地区として条例により規制を行っている。同条例に基づく保全計画を定め、桶ヶ谷沼保全委員会を設置して保全及び管理の方向性を定めている。なお、自然環境保全のため、当該保全地域の約 97%が県有地とされている。 ベッコウトンボを「保護すべき野生動植物の種類」として指定し、ベッコウトンボをはじめとする生物の生態系を保全することで、桶ヶ谷沼の多様な動植物も保護できると考え、沼及び周辺の山林等の保全管理を行っている。				
連携・協働による取組内容・役割分担等		桶ヶ谷沼保全委員会〔静岡県主管、住民、行政(磐田市、静岡県) NPO (NPO 法人桶ヶ谷沼を考える会) 専門家(日本蜻蛉学会、静岡淡水魚研究会、野鳥の会、野路会等)で構成〕で保全管理の方針をたて、桶ヶ谷沼管理運営委員会〔磐田市、地元自治会、NPO (桶ヶ谷沼を考える会ほか)、専門家(生物系高校教員等)で構成〕で実際の保全作業を進めている。			
取組の特徴や強調したい点		<ul style="list-style-type: none"> ・地元の研究者(野路会)と地域の代表者の意見を聞きながら、沼及びその周辺の保全を進めている。ベッコウトンボを市の昆虫に指定し、「トンボとサッカーのまち磐田」のキャッチフレーズのもと、平成 16 年 4 月に桶ヶ谷沼ビジターセンターを開館するなど、全市をあげて取り組んでいる。(ビジターセンターは、自然保護団体の活動拠点、環境学習の場として活用されている。) ・地元の生物研究グループ野路会が 40 年前から生物相調査を行う中で、トンボの生息場所としての価値を行政に訴えたのがきっかけである。また、25 年前に地元の青年会議所が街おこしの一環としてトンボをとりあげ、活動を展開してきたことが後押しとなった。これらの活動が評価され、平成元年から県が用地取得を重ね、平成 3 年 3 月に自然環境保全地域に指定された。 ・現在は、桶ヶ谷沼ビジターセンターを拠点として、県、市、地元研究者、NPO 法人等が連携してベッコウトンボの保護活動を中心に里山保全に取り組んでいる。 			

取組の概要	行政、研究者、NPO が連携しベッコウトンボを指標に里山保全	課題グループ 野生生物
事例の特性	シンボル種の保全・活用による住民の保全活動への関心喚起	
取組の中で他の地域の参考となる点	桶ヶ谷沼ビジターセンターを拠点として県、市、地元研究者、NPO 法人等が連携して活動している。ベッコウトンボの保護を通じ、桶ヶ谷沼の生態系を保全することで、多様な動植物も保護できると考え、沼及び周辺の山林等の保全管理を行っている。	